



青山ゆたか 12月4日 一般質問 要



市職員の研修 ・派遣について

質問 国・県・民間に派遣する目的と効果は何か。

答弁 目的は他組織が持つ業務の専門性やスピード感、民間の感覚等を学ぶことだ。期待する効果は多くの人脈、ネットワークの構築であり、それは市にとって大きな財産となる。

質問 派遣された市職員は帰任後、その経験を市役所全体に浸透させる役割を担う必要がある。そういった仕組み、環境づくりができないか。

答弁 報告会を開催し全体に広め、(市職員が)職務に活かすという取り組みをしている。環境づくりは管理職が配慮しなければならぬ。そういった意味で管理職の研修にも重点的に取り組んでいる。

「潜在住民」による 地域活性化について

質問 若手を中心とした※潜在住民のネットワーク化を図るべく、首都圏PR担当を置く考えはないか。

答弁

潜在住民はこれからの地域活性化の新たな力ギとなる。現在※移住コンシェルジュの設置に取り組んでおり、民間人をお願いする予定だ。移住に関するだけでなく、首都圏で活躍され、横手との連携事業を考えている方に対する情報発信を担う役割も期待している。

質問

移住コンシェルジュも必要だが、私の提案する首都圏PR担当の業務内容は地道に人と会う営業マンのような仕事。片手間ではできない。市職員を専従させるべきだ。

答弁

それは実際には難しいと思う。東京在住でなくても様々なネットワークやつながりがあるので、それを活用しながらやっていきたい。

観光客に対する 「おもてなし」について

質問

市は観光振興計画を策定し、「強い横手の観光」に取り組んでいるが、その力ギを握るのは市が一体となった「おもてなし」の確立である。「おもてなし」の意識をどう醸成していくのか

答弁

接客業に携わる関係者を対象とした「おもてなし接遇マナー研修」を実施しており、今後も開催を検討している。しかしながら、市民全体へのおもてなしの心の醸成にはつながっていないのが現状。先進事例を参考にしながら独自の運動を展開していく。



▲3年前のB1グランプリでのお見送り活動

※「潜在住民」とは、「過去にその地域に住んでいた等のつながりがあり、後に地域を離れたものの、今も変わらず感情的なつながりを保ち続けている人」。一例を挙げると「横手に生まれ育ち、高校卒業後は都会に出たけれども、今も横手に愛着を持ち、何かしたいと思っている人」。

※移住コンシェルジュとは、横手市への移住を考えている方に魅力を伝えるとともに様々な情報を提供するもの。